

ふるさと 見て歩き

第86回

下岩瀬ごだいそんの五大尊

大宮地域の下岩瀬には、不動明王をはじめとする5体の明王をまつる五大尊堂があり、人々の信仰を集めてきました。2011年3月の東日本大震災では堂宇と所蔵の仏像に被害を受けましたが、その後の救出により新たな事実が発見されました。



▲東日本大震災で被災した五大尊堂

五大尊は、密教における明王のうち、不動明王、降三世明王、大威徳明王、軍荼利明王、金剛夜叉明王の五明王をいいます。不動明王を中心に、四明王をその四方に配置してまつられ、京都の東寺（教王護国寺）講堂の五大明王像などが有名です。

下岩瀬の五大尊はもともと三学院（天正8年・1580建立）という山伏寺院だったといわれています。その後は真言宗の宝蔵院という寺になりましたが、天保14年（1843）に廃寺になり、その跡地に五大尊堂が建てられたと伝えられています。

現在の五大尊堂の中には「文政八年酉七月廿四日棟上 棟梁中崎藤介」と墨書のある柱が保存されていて、その年に棟上げが行われたことがわかります（現在のお堂の建立年かどうかは不明です）。中崎哲氏の「五大尊記」（『大宮郷土研究』2、平成10年）によれば、五大尊堂は明治年間に火災に遭ったため、大般若経600巻を地元の三氏で分け合って保管することとなり、現在も持ち伝えられています。

中崎氏の回顧によれば、五大尊は「ゴダイシンサマ」と呼ばれ、6月27日の五大尊堂の御田植祭には夜店が出てにぎわったそうです。しかし、昭和30年代の耕地整理により、五大尊堂の前を通っていた道は少し離れたところを通るようになり、五大尊は「杉木立の中にポツンと置き去りにされた」（『五大尊記』）ようだったと記しています。この時既に堂内は荒れて、五大尊像も壊れてしまっていたようです。

東日本大震災では、上・下岩瀬地区も大きな被害を受け、復旧までに長い時間がかかりました。

五大尊堂は倒壊の危険があったため、堂内に安置されていた五大尊像のほか、仏像や仏具、什器などを持ち出し、清掃のうへ一時的に別の場所に保管することになりました。この作業には地元の方と共に、県内の被災文化財を救済している茨城史料ネットの方々と桜川市の仏師飯泉太子宗さんにご協力をいただきました。

地震により崩れ、ばらばらになった仏像の部材を一つずつ組み合わせ、五大尊像と弘法大師像の部材をまとめました。



▲救出された明王像の一つ軍荼利明王

五大尊の中尊である不動明王像は、前後の割り矧ぎが外れた状態で救出されましたが、その胎内からこれまで知られていなかった銘文が見つかりました。



▲不動明王像胎内銘文

御工人
水戸侯 静心齋 願主
中崎藤兵衛
奉造立五大尊明王
文政三庚辰年十一月成
同 村中
同 内田幸吉
同 延蔵 利安
同 巧介 利貞

銘文によれば不動明王像はお堂の再建の5年前（文政3年）に作られたこと、下岩瀬村の庄屋中崎藤兵衛が発起人となり、水戸徳川家と関係のある「静心齋」という人物が関わっていることがわかりました。

歴史民俗資料館大宮館 ☎52-1450